夕刊
磐城新聞
八月十七日發行
日曜祭日翌日休刊

淋しい點心

蕪坂蜷

もう、とつくにみんな歸つてしまつた、ガランとした小學校の門を出たのは、進と良平でありました。昨日先生から命じられた算術の宿題を忘れた罰に、放課後一時間、たつた二人きりで宿題をやらされたからです

『やつと出來ましたね。では、もう歸つてよろしい。今度から宿題を忘れないやうにしなくちやいけませんよ』

先生にさう云はれると、二人ともほつとした顏になりました。が、ガランと誰もゐない校門を出て、秋の夕陽が赤々と道路を染めてゐるのに氣がつくと急に物哀しくなつて來ました

大都會郊外の、この住宅地に住んでゐる會社員の子の進は、すぐ自分の宅の裏手に住んでゐる豆腐屋の子の良平とは、同級でありながら今まであつたに遊んだことはなかつたのです。進は父母から、近所の子供達はガラが惡いから遊んではいけない、と、常日頃から云はれてゐたからであります

で、二人は秋の夕陽に長い影法師を曳きながら默つて、並んで家路へ歩いてゐました。すると今日罰を受けた二人は、しみじみとよけいに物哀しくなつて、悄然と頭を垂れて歩きつゞけるのでありました

二人が良平の家の近くまで來ると、その邊で遊んでゐた七八人の子供達は、一せいに良平に聲をかけるのでした

『良ちやん！今かへつたの早く遊ばうよ、僕等は探偵ごつこ、してるんだよ…』

良平は急に顏を擧げました。今までの哀しさうな顏ではありません。いき〳〵とした色が眼に漲つてゐます

『うむ、遊ばう。ちよつと待つておくれよ、すぐ來るから……』

さう云ふや否や良平は、どんどん我家へ駈け戻りました。油揚げの匂のする店先には良平の母親が腰かけてゐます。良平はいきなりその母の膝に飛びつきました

『お母ちやん！一錢おくれよオ……』

母親はニコニコしながら良平の鞄をはづしてやると帶の間から幾らかの小使錢を良平の手に握らせてやりました。すると良平は、すぐ又我家を飛び出して遊び友達の方へ駈けて行くのでありました

跡に取殘された進は、ぼんやりこの樣子を眺めてゐましたが、又、悄然と我家の方へ歩き出しました

その時、電燈が、秋の夕陽の街々に、ぽうと音もなく點いたのであります……

『お母さん、たゞいま』

進は母に云ひました

『お歸りなさい、今日は隨分おそかつたのね』

進の母親はさう云ひながら側にゐた女中の菊やをふり向きました

『進のおやつを持つてらつしやい！』

菊やはすぐ立上ると臺所からお盆に栗のむしたのを一ぱい乘せて、進の前へ持つて來ました。が、進は手を出さうとせずに默つてうなだれたまゝでゐました

『進、お前今日はどうしたの？誰かと喧嘩でもしたのぢやない？』

母親はいぶかしさうに問ひました。すると進の眼から、母に答へる代りにポロリと涙が轉げ落ちました。つゞいてポロ〳〵と、いくつもの寂しい涙が進の膝の上に、お盆の栗の上に落ちて來るのでありました（了）

磐城歌壇

新妻久滿夫選

瘠するおもひ　田部きみ子

○水草に細きすがたをともし出す螢をみれば瘠するおもひあり

○十九年生きの進路にまざまざと現れて來てとりまく障礙

○竹の葉の露冷やかに吹かせくるせゝらぎに似し初蟬の聲

○二つばかり鳴きをましたる蟬の聲に心凉しき早朝偷なり

○竹の葉の露に一つの歌ありて土用の今朝の落付となる

○新型の自動車一つ朝霧の松原遠く疾走しくる

小評　第一首の對象の扱ひ方に於て少々受け難い所があるのであるから『瘠する思あり』といふ、結句をもつと端的に感情を吐露した強いものにして欲しかつた。第二首の象徴も弱い。第三首の下の句は陳腐平凡であるが、漸く上の句によつてその難を些か免れてゐる第六首の『松原遠く』も再考を要する。新奇警拔な歌境を拓きつゝある作者は才が勝ち過ぎてゐる刮目して待つ歌を示されんことを。

好間石雛句會

金成碧洲子

鮎跳ねる水輪明るく暮れそめし

夏シャツ肩より破れ初めけり

鈴木欣々子

畑土によごれし紫蘇の葉裏かな

鮎の瀬のやうやく明けて來りけり

鈴木好文

砂礫に干して吹かるゝ夏シャツ

ほの〳〵と霧のはれゆく鮎の宿

卵

立伸二

雞小屋ぐるりと
かけめぐる
菜つぱはふつて
かけめぐる

卵だくさん
產んで呉れ
小屋にこもつた
雌雞よ

弟病氣で
さみしいな
菜つぱはふつて
かけめぐる

社會の今日

8月18日

△秀吉薨ず（慶長三）△靑島の支那人千名大擧邦人を襲擊す（昭和六）△日本銀行第三次利下げ斷行△ブラッセル大學のピカール敎授再び成層圏探檢のため高空に上昇す（同七）

○

川狩や獲物少き下弦月　竹翠

姉上が胸にさしたる縫針の、光りもすゞし夏となりけり　辻井定子

講談　浪人長屋 (168)

日岐武志作　月草道子畫

二階の客

『こいつは、昔の刺靑たアすこしちがふんでね』

『まア、どういふふうに、ちがふんですの』

『こいつアね、自分で刺靑をした覺ゑがねゑのに、いつの間にか、體中の何處かにかういふまだらな奴が、浮きあがつてくるんでさアね』

文三、ニヤツと靜香の顏色をうかゞつた

『刺靑をした覺えはねえでせうな』

『ちつとも、しらぬ間に』

『さうだらう、な』

『先一昨日、風呂へ行つたときはなんにもなかつたんですのに、きのふ、風呂へ行つて、はじめてしつて、驚いてしまひました。身に覺えのないこんな恐ろしい刺靑が、急にどうして出來たのでございませう』

むしろ、憐みを乞ふやうな、いつしんな靜香の樣子にくらべて、刺靑師文三の惡黑い面には、皮肉なずるさうな、うすい笑ひが浮んだ

『まア、ふき出物みたいな奴さアね、もとを正せば、南の國の、異國人が創めたんださうぢや、そいつが病氣みたいに、傳はつてきたらしいのぢや』

文三は何か目論でゐるらしくいゝ加減な、効能書をならべた

しかし、靜香は、しんけんだつた

『治すことは、出來ませんでせうか』

『うむ』

と、うなづいた文三

『先刻もいつたやうに、命がけの治療ぢや。死ぬる覺悟があれば治らぬとも限らぬ、とにかく、藥を塗つてみて進ぜよう』

文三は立上つて、床の間にある藥箪笥から何か藥瓶を取り出してきた

そして、その透明な液體を筆の先に含ませて、靜香の白い足裏一面に塗つた

『痛くも、こそばゆくもないぢやらう』

『はい』

『これが、この靑刺の特徴ぢや、普通の靑刺だと、この藥を塗れば飛び上がるほど痛みがチク〳〵肌を刺すのぢや』

塗り終つた文三

『干くまで、暫らくさうしてゐなされよ』

『はい』

さういひのこして、部屋をでて行つた文三、ギシギシと階段を上り乍ら、ニヤリと北叟笑んだ

『先生』

文三は、二階の襖をあけて、小聲でよびながら部屋へはいつた

『なんぢや』

錆のある聲で、こたへたのは左の片腕が、付根からない、浪人體の男、かの栗澤玄内である

意味ありげな文三の笑ひをみた玄内、前の將棋盤を傍へのけて

『なんぢや』

と、むき直つた

『へ、へ、へ、へッ』

と、いやしく笑つた文三

『來やしたせ、待ち人が。待ては海路ッて、このこんでさア』

『分らぬ。なんぢや』

『しらッぱくれるのも、ゑげえにしなせゑよ。とてつもねえ別嬪が、顏[illegible]りこみやしたせ。足の裏にそれまだら蜘蛛の靑刺が――ぎらですえ、先生、これでも分らねえですけえ……』

『うむ』

ニヤリ笑ひを浮べた玄内

『來たか。年は幾つ位ぢや』

『まづ〳〵、ねねところ廿一、二とは行きますまい』

玄内、何か思ひ當つたかくすりと北叟笑んだ

レビュー　海は歌ふ

岡浩

三

みち子（舞臺內にて、聲だけ）妾、だつてなにも出來ないは

男（同じく聲だけ）そんな事ない、素晴しい聲だ。僕は、きつと東都レヴュー一國のプリマドンナに！[illegible]

みち子　何も知らないんですもん、島の娘位しきやあ

男　いゝよ、歌つてごらん

（島の娘の歌聞こゆる）

（聲次第に近くなり男に抱かれたみち子歌ひ乍らうつとりとして二人に氣づかず[illegible]）

（二人顏を見合せて力なくそれを見送る）

（その後から子供達再び踊り乍ら來る）

（立つてゐる二人に氣づき傍による）

子供一（春吉に）おぢさん活辯の眞似やつてよ、この前みつちやんとこでやつたみたいの

子供二　やつてようねー。東山三十六峰靜かに眠るうしみつ時つてえの、あ[illegible]

春吉（力無く）駄目だよ。そんな事出來るもんか

子供三　やあい、みつちやんとこでなきやあ出來ないのか、おかしいぞう

春吉　そんなことない

子供三　ならやつてよ

春吉（仕方なく）やるよやるよ。月はおぼろにかすむ熱海の海岸。ねね宮さん今月今夜の此の月は僕の…僕の涙で（泣く）

子供ら　そんなの面白くない[illegible]よう

春吉（泣き聲で）ちやんばらなんか出來るもんか、俺の胸はもつとひどい大亂鬪だ

子供ら（はやす）やあい泣いてらあ、男のくせにないてらあ（子供らの聲が次第に花嫁御寮の歌になる。その聲にまじつて島の娘の歌が閉ゐる。二人の高潮するすゝり泣きにで靜かに幕）

御中元贈答用品陳列
シャツ、靴下、ワイシャツ、ネクタイ、タオル、半布、石鹸、化粧品詰合等々
各賞用品を豐富に取揃えて…………
特に便利な商品切手を御利用下さい
に　ヤルツ
電一四〇

クスリはホシ
全國藥業家・諸賢に警告す
六月十四日判決
「被告（大阪試驗所）ハ昭和五年八月二十一日及同年十一月二十八日出願ヲ以テナサレタル、ホシ胃腸藥、アンチツベルケン、ホシチオール其他別紙目錄記載ノ各商標權移轉登錄手續ノ抹消ヲ爲スベシ」
「同商品ノ製造販賣ヲ爲スベカラズ」
と裁斷せられ、神のものは神に、「ホシ」のものは「ホシ」にと決定致しました。
本社は法律の與ふる權利と本社の負ふ任務に基き『ニセモノ』の一掃に邁進致します。
全國の藥業家諸士が職業的良心に愬へ、此の正義の戰に眞心からの共鳴と協力あらんことを切望すると共に、『ニセモノ』販賣者に對し茲に御警告申上げる次第であります。
昭和九年七月
東京・五反田　星製藥株式會社

ホシチエンストアー平支部
ホシ藥舖
平町三丁目三〇
電話四二九番

外科全般
（特ニ內臟外科、泌尿、性病科）
醫學博士　渡部義夫
小兒科、內科
女醫　渡部きい
平町役場前、電話（二七七）
渡部外科
入院應需

吉田眼科病院
平町紺屋町　電話六八番
醫學士　吉田久雄

內臟外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

暑中御伺
改築に付休業中で御座いましたが愈々竣功本日より開業致す事になりましたから倍舊の御贔屓を御願ひ致します。
平町二丁目裏
鳥料理　初音
電話二三六

謹告　東京日日新聞平支局相本信一郎君今般郡山支局長に榮轉、近日中赴任の筈に付、同君の爲左記に依り送別會開催、多數御出席相仰度此段謹告致します。
尚御出席の方は當日正午迄役場內記者室宛御申込み下さい

發起人
平町長　靑沼鋒太郎
平署長　横山宗延
平日刊新聞記者團當番幹事

一、期日　八月十八日午後六時
一、會場　平町谷口樓
一、會費　金二圓也

婦選
平税管内 所得調査員選擧に 女の有權者が約廿名
完納して一票を行使せよ
執行期日漸く切迫す

平税務署所轄内第三種所得調査委員赤津修一、赤津庄兵衛、加藤丈夫、猪狩庄平、阿部唯次郎、柏原幸次郎、野崎滿藏の諸氏は今春の調査會を最終とし任期滿了したのでその改選は去る三月十五日迄に所定の所得申告をなした約六百九十名の納税者中來月十日確定の名簿に登載された有權者により十月十日を以て執行さるるので選擧とし云へば何事にまれ、相當の關心を拂ふ地方人の通例として最近寄々一部の話題に上せられつゝあるが殊に該選擧は一般のそれと異り有夫の婦其他の欠格者を除く外能力者たる以上女性も選擧權を有し地方に於ける婦選の好適例を示すものだけに少からず此の意味に於ての興味も唆つてゐる、尚ほ該選擧に關し

一、無能力者（禁治産者準禁治産者、妻）

其他法第三十一條但書による欠格者の外昨年九月十一日より來月十日迄の間に於て國税の滯納により財産差押へ處分を受けたるものは選被選の權を喪ふ規定なので、去月末が納期の所得税、宅地租及び今月一ぱいの營業收益税資本利子税の未納者は此際遅滯無く納付の上貴重なる一票を行使すべきであると、因に管内に於ける婦人有權者は約二十名であると

新優勝旗爭奪の 菊田方部第一回野球戰
明日から勿來川部で開催

勿來野球協會主催第一回野球大會は明十八、九の兩日午前八時から同町及び川部南小學校庭に於て開催されるが優勝旗の新調を見たので盛會を豫想されてゐると

城山チーム陣容を整ふ
◇對抗野球準備

町内各野球チームは來月中旬頃行はれる筈の町内青年團對抗軟式大會を控へ目下何れも猛練習中で最近催された中等學校大會に刺戟され一層の盛況を豫想されて居るが中にも最近編成された郵便局小林庶務主事を監督兼主將とする城山チームは連日各方面からの挑戰に應じ、中にも常勝古鍛治其の他の强豪を破り大いに有望視されて居るが同チームでは此の程ユニフォーム其他一切を直接カヂマヤに注文した程の張込み様である、尚同大會昨年の優勝は三丁目チームであると

。。。軟式―東　昨日平商校庭に二時半より
城　山7―4學生チーム
四時より
遞　友14―2御　厩

健保競技會
來神嘗祭當日 磐中で開催決定

縣健康保險主催第六回郡下競技大會は平町で開催する事に決定したので地方鑛山及會社關係事業主約三十餘名は昨報の如く昨十六日午後二時から縣より岡本同課長を招き種々協議した結果來る十月十七日の神嘗祭を卜し磐中グランドに於て開く事に決定したが前回は郡山、第四回は平で催し盛況を呈したので今回も各炭鑛を始め地元會社關係から多數の出場で相當の盛會を豫想されてゐると

流燈會
◇冷涼の盆風景◇ 愈々近づく

地方舊盆風景の掉尾を飾る平町鎌田青年團主催の流燈會は今年も來る二十九日（舊七月二十日）宵同鎌田橋畔で催されるが夜風涼しい夏井の流心を靜かに汇るエメラルドの如き小燈籠の數々に一層の興味を添ふる仕掛花火及裝飾競技會等の外今年から本通りの松焚きが廢止される關係などから競技會に於ける出品も例年以上を豫想され地元青年團には近く佐藤分團長宅に協議會を開き競技規程其他を打合せると

小林淳氏榮轉

七十七銀行平支店員小林淳氏は今回仙台市宮城銀行に榮轉明十八日午前八時發赴任するが後任は七十七銀行仙台原町支店より大泉源三郎氏來任すると

。。。。下小川起債村會。。。。下小川村では昨十六日村會を招集し同村桐ヶ岡地内村道改修の爲五百圓の起債を協議決定した

習を試みたと

求職兒實習開始
聯絡校の四十七名 けふから町内卅二商店へ

平職業紹介所では既報の如く明春卒業就職希望兒童中好間校廿七名、湯本校十七名、内郷校二名、同家政學校及平第一校各一名、計四十八名のため愈々今十七日より二十三日迄平町内三十二商店に於て實習せしむる事になつたと

投槍
投書歡迎

。。。。平町の七夕禮讃。。。。

◇平町に於ける今年の七夕を見て、所謂世紀末の家囲氣に悶えて居る吾々は優にいみじき松焚きの行事に代る良い思ひつきとして劃期的に擴大された今年の七夕に一種の賑しさが込み上げて來るのを禁じ得なかつた

◇本場の仙臺を凌ぐのさへあつたと云ふ事も滿更溢美の言葉でも無いらしい迄に一躍世人から認められた此の行事をして一段の光彩あらしむるにはどうしても各戸の一糸亂れざる統制が必要と思ふ

◇先づ第一に、揭出と撤廢の日時を一定する事だ。今日のもあり明日のもあつては觀る人の氣分が極めて散漫になつて了ふと同時に折角中には旬日を費して造り上げた貴重な汗の努力を飾つたと思ふ間も無く流して了ふなぞは惜んでも餘りある事である

◇最後に之の前後に於ける惡太郎の跋扈跳梁を取締る事である、即ち今年の實例から云つても何日置いても見飽きない樣な綺麗なのを深夜むしり廻つたのが少くない、之等は是非青年團其他の手によつて取締つて欲しいものだ。大方の意見如何

（三丁目耽美生）

延四萬人を突破 平のラヂオ体操會
愈々中一日で終了

平ラヂオ体操の會今十七日の出席人員は左記内譯の如く總計二千四百九十一名、延人員では四萬を突破すること一千四百六十一名であると

（第一校會場）第一兒童五七八　第二兒童一、〇八五　その他學生々徒、小兒四〇　大人八八五　その他三　計一、八二六　延人員二八、七六四

（第三校會場）兒童學生五四三　その他一般一二二　計六六五　延人員一二、六九七

尚何らかの都合により一度缺席するとその後の出席は無駄になる如く考へて出席の遊る向も多くあるので係員は誤解することなく兒童及び一般も努めて出席するやうにと言つてゐる

富岡東京へ回線增加
惠まる平の電話加入者

懸案―元富岡無電局使用線の處置に就いては過般來關係當局間で折衝中であつたが此の程大体遞信省が富岡―小山間を借受け東京小山間に新に增設することになり今年度中に平―富岡間平―東京間各二線、水戶、高萩各一線を增加される事になつた、現在東京への回線は二線で、一月三百乃至四百の通話あるため早くとも普通一時間至急三十分位を要したが一躍四回線になり時間の中減されるを初め各地への市外通話上の一大利便が齎され今後福島、郡山方面へ增加されれば眞に申し分が無い事になるわけである

けふ限り盆明けまで 二丁目道路工事休止
アブレ人夫は夏井川へ振り向け 生活を脅かさずに濟む

平町の鋪裝工事は昨報の如く目下進工中の二丁目地内か舊盆を前にしてその商賣上支障甚大な陳情を受けたので今十七日限り盆明けの來る二十七日迄工事を休む事になつたが之がためにアブレるその日暮しの就勞者約四十餘名は代表を擧げ此の休工期間を現在毎日五十名を使役しつゝある夏井川改修工事に使つて貰ひたいと其の筋に陳情したので職業紹介所では極力同事務所側と交渉した結果平町就勞者男二十餘名、女三名は使役される事に決定し何れもよい盆が迎へると當局側の奔走に感謝しつゝ大喜びであると

飯田中將時局講演

縣では軍人後援事業普及のため來月七日勿來町小學校に時局講演會を催すが講師は海軍中將飯田久恒氏であると

平窪火災演習
平窪

盂蘭盆とは？ 釋尊と目蓮尊者
孝を寓意した其の緣起

今年も愈々七夕が過ぎて刻々お盆氣分が濃厚になつて行く。俗人の身の些か僭越乍ら以下請け賣りのお盆談議‼

お盆は盂蘭盆と云ふのが本當であつて盂蘭は救倒懸即ち逆さに吊るされた苦の頂上と云ふわけ、詣り盂蘭盆とは所謂拔苦與樂の法則なのである

×

大釋尊十大弟子の一人目蓮尊者の母は非常に慳貪な人で其の報ゐとして餓鬼道に墜落した、孝心深い尊者は目前に母の苦みを見るに忍びず手を悉くして救はうとしたが力及ばず釋尊に助力を乞ふた、釋尊は諄々として因果の法則をお示しになり母の爲に一大供養を行はれ、その功德によつてさしも餓鬼道に沈んでゐた母は救はれた、これ七月十五日の事でお盆の初めである

×

されば盂蘭盆こそは佛事の中でも最も重大なものでお互眞心をもつてこれを修めたならば現在の父母の幸福を進め遠く祖先累代の冥福をも助け、かつ無緣逆緣の菩提を弔ふことが出來るのである

お盆は支那に傳はり、日本に傳はり、齊明天皇の三年七月十五日勅して盂蘭盆經を講せしめられ、聖武天皇の天平五年には七月十五日に宮中に於て盛大なるお盆の式が行はれ、以來あまねく天下に勅して永遠の盆會を行はしめられることになつた

お盆の精神は、全く親に孝をつくす心と、篤く祖先の恩にむくゆる心とが、日本の美德たる忠孝と、崇祖の精神に合體したのである。故にこれは九千萬國民の寸時も忘れてはならぬところの、極めて大切なる道德と謂はねばならない

自動車通行人を傷く
過傷で近く書類送檢

四倉町字中田八五自動車業酒井久太方運轉手秋田縣北秋田郡扇田町生れ加賀茂太郎(二八)は去る八日午後二時頃貸切を運轉、神谷村大字平字國道を疾走中前方を通行中の内郷村大字白水王城炭鑛撰炭請負業宮島武雄(四二)に誤つて泥除けを追突し額部其他に全治三週間の傷害を負はせ平町鎌田町白十醫院に入院加療中なるを發覺、過失傷害罪として平署の取調べを受け近く書類送檢の筈

醫學集談會

平町磐城共濟病院醫學集談會第六回例會は明十八日午後七時半より同院醫局に於て開催
一、ナルコポンスコポラミン慢性中毒患者の一治驗例に就て　内科部長岩手醫學士　平賀一忠氏
一、丹毒に對するカンチロス療法に就て　外科部長醫學士　阪本眞一郎氏
の講演がある

無一物の豪遊に 懲役一年を求刑
けふ平區の公判

勿來町大字關田字南町一〇五無職前科二犯眞船義道(三五)が去月九日夜雇はれ先日の茨城縣多賀郡助川町赤津緞治工場で同僚二名と燒酎一升を平げた勢で同町會瀨の待合君の江事君塚すわ方に登樓翌晩仕拂ふからと同十二時頃までに酒十數本外藝妓二名をあげ三十餘圓の豪遊をなした詐欺事件は今十七日午前十一時より平區で關口判事、吉岡檢事係りで公判開廷、懲役一年を求刑されたが言渡しは明十八日

三原山から戻され 遂に服毒絶命
死神に憑かれた精神病者

飯野村大字谷川瀬宇吉の作(四〇)農遠藤勝平(三二)は去る四月初旬頃より精神に異狀を呈し常に死を口走り五月中は三原山へ出掛けて伴れもどされ家人監視中昨十六日午後六時頃突然家出猫いらずを嚥下十一時頃歸宅苦悶中を家人が發見手當を加へたが今十七日迄に絶命した

。。。。釣り老爺轢死。。。。湯本町八仙入山炭坑長屋十一の三坑夫一郎實父小口秀吉(六二)は今十七日午前八時頃伴一郎の後を追ひ釣に行く途中磐崎村大字西郷地内藤原川鐵橋で湯本着九時二十二分下り列車に頭部及右肩を轢かれ一丈五尺下の河中に轉落即死をとげた

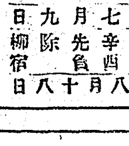
。。。。政府米拂下指令。。。。過般申請した川部村百六十俵、錦村二百八十俵の政府拂下げ米は何れも昨十六日認可されたが一俵値は八圓七十八錢であると

電話買ひ度し（姓名在社）

。。。。販賣組合改選。。。。石城販賣利用組合平町總代人二名の改選は來る二十日町會議事堂で行はれるが立會人は佐藤伴太郎、大谷久藏兩氏に決定

十八日
日出 五、〇一　月出後 〇、三四
日沒 六、二八　月沒後 一〇、二一
滿潮 前 一〇、五五 後 九、三〇
干潮 前 三、五〇 後 三、〇五

舊七月九日　土曜　新八月十八日
辛酉　先負　際　柳宿



諸判定運勢
東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神宮館

▲一白の人　相當に成功を收めし上は其以上願はぬが吉▲二黑の人　他の感情を害せず穩和な取り濟せば吉▲三碧の人　不安の一日を過ごすべし萬事自重するが勝▲四綠の人　遣り過ぎの失敗多し又爭論口舌を避くべし▲五黃の人　人心和同して家業亦繁榮の兆あり精勵第一▲六白の人　頑健にして忌まれ事大にしてひん斥せらる日▲七赤の人　運勢良好にして旅行計畫成り易く奮勵大吉▲八白の人　他よりの援助を受け萬事に便宜あり好敵吉▲九紫の人　才力に誇れば意外の騷動を來たし損失多し

淨國院新盆に相當候處甚だ勝手がましく候へども提灯その他供物等一切御辭退申上候間御諒承願上候
平町鍛冶町
施主　國府田直良

父白鴻院新盆佛事上小川村生家に於て相營み可申候處誠に乍勝手供物一切辭退申上候
白井一郎

父普光院 新盆に相當り候處時節柄甚だ勝手ながら提灯及供物等堅く御辭退申上候
平町田町五
熊谷豊子

小店員數名募集
十三歳より十七歳迄
心身强健なるもの
獨立の際は必ず援助す
（詳細は磐城新聞社宛照會の事）
東京市日本橋區大傳馬町三丁目壹番地貳
内外各種糸物商
株式會社　藤掛商店
電話浪花(67)〇、三五一番 一、二四番 二、三四二番　振替東京三一四〇番　電信號（ウ）受信登錄（ト）ヨウフヂ・ト

絹張行燈、牡丹行燈、都行燈、紋天行燈、猫足行燈、變り形、新缺澤山取揃へました
お盆提灯大賣出し
平町四丁目角
菅野屋商店　電話一五七番
◎遠近に拘らず見本持參致します

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
院長 醫學士　金森五郎　電話九二五番
入院隨時

氣管、食道科、耳鼻、咽喉科、專門
平町南町（元眞木辯護士跡）
增田耳鼻咽喉科醫院
電話 四八二番
（入院隨意）